

- 交通事故自動通報システム(ACN)とは、エアバッグが展開するような大きな事故が発生した際自動的に救急コールセンターへ通報するシステム。(※車載機のボタンを押すタイプもある)
- これにより、事故被害者の治療をいち早く開始することが可能となり、救命可能性や傷害の重症化を防ぐことが可能となる。
- 更に、通報と同時に乗員の重傷度を判定し、搬送病院の選定や場合によっては医師の出動を促す「交通事故高度自動通報システム(AACN)」は、一層の死者削減効果が期待される。

ご利用の流れ

緊急事態発生

車載機のボタンを押すだけでヘルプネットに接続します。



※エアバッグ展開に連動して自動的に通報するタイプもあります。

オペレータが素早く対応

365日24時間、いつでも対応いたします。



出動指令

警察・消防・ロードサービス等の出動指令が出されます。



現場急行

パトカー、救急車、ロードサービス等が現場へ駆けつけます。



ここがポイント HELPNETは、GPS衛星で位置情報を取得します！

車載機のボタンを押すと、車載機から現在位置及び走行軌跡データがオペレーションセンターに自動発信されます。データ通信により送られた現在位置や車両情報を把握し、HELPNETが通報者との会話・要請により警察・消防・ロードサービス等の救助機関に接続します。

リコール制度の充実を図る

自動車における装置の共通化・モジュール化

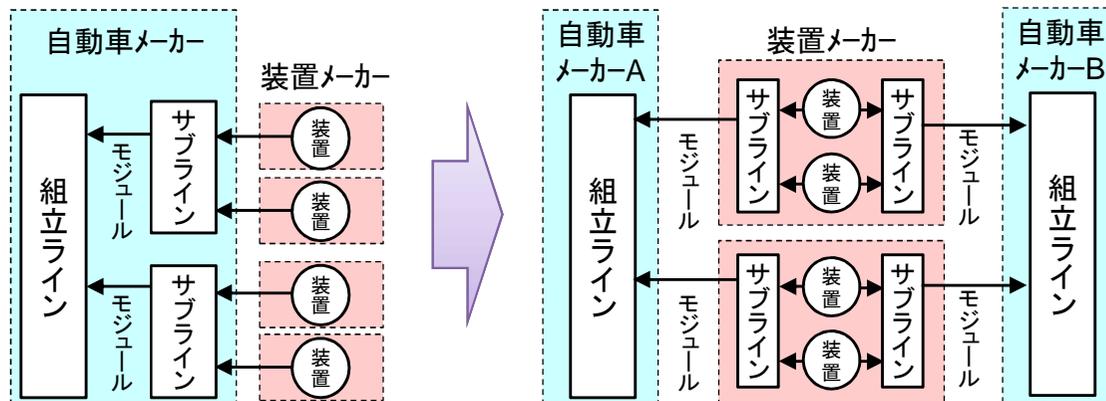
- 自動車メーカー各社では、開発・生産の効率化のため、車体の大きさ、タイプを越えて、自社製品の基本部分の共通化・モジュール化の取組が進められている。
- 装置メーカーは、様々な自動車メーカーと取引する中でその技術力を強化するとともに、複数装置を束ねたモジュールを様々な自動車メーカーへ多角的に供給するようになってきている。



トヨタ:TNGA
Toyota New Global Architecture
2013年3月公表



ルノー・日産:CMF
Common Module Family
2012年2月公表



リコールにおける課題

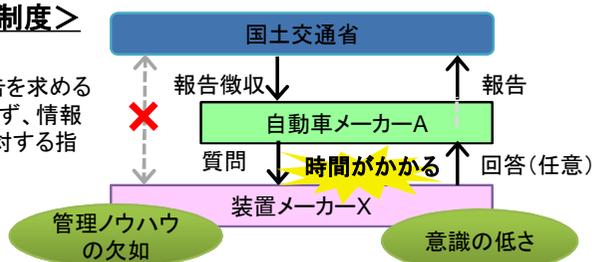
- ひとたびリコールが発生すると複数の自動車メーカーによる大規模なものとなるため、より迅速な情報収集と適切な対応が必要
- リコールの原因を究明するためには、自動車メーカーだけではなく、装置メーカーが保有する情報も必要

リコール体制の充実

- 装置メーカーにはリコールの判断を行うために直ちに必要となる技術情報や納入先自動車メーカーの情報が蓄積されているが、十分に活用されていないため、リコールの実施に必要な報告徴収・立入検査の対象に装置メーカーを追加し、これらの情報をもとに自動車メーカー及び装置メーカーへの指導・監督を強化する。

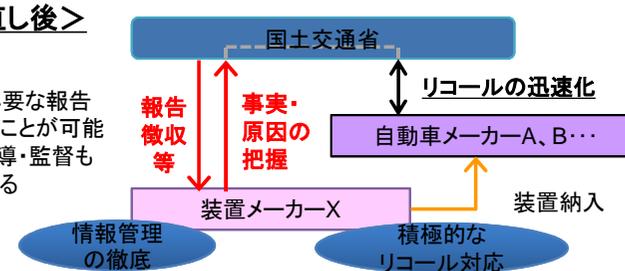
<現行制度>

直接、報告を求めることができず、情報管理等に対する指導も困難



<見直し後>

直ちに必要な報告を求めることが可能
また、指導・監督も可能となる



自動車事故を防止するための取組支援(安全運転推進事業)

事業の概要

自動車事故を防止するため、自動車運転者等に対して安全運転に関する知識・運転技術等の向上を図る講習等の実施等に要する経費の一部を補助する。

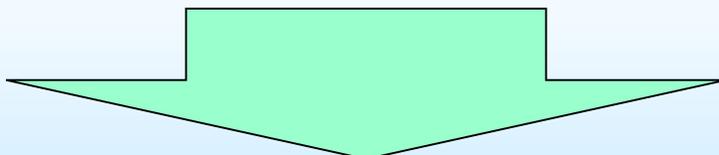
必要性

○ 若年者層や高齢者層においては、交通事故件数が高い状況にあるため、このような者に対する安全運転教育として、実際に自動車を運転させるなどの個別指導を行い、自身の不得意な運転技術、不十分な安全確認を自覚させることが必要。



○ また、実際の運転時における事故を回避するためには、一般道路では通常体験できない急制動などについて、指導員の下、安全な場所で実体験することが必要。

○ さらには、個人のみならず、組織全体として自動車事故を発生させない安全風土の醸成に努めることも必要。



これらの教育の機会を拡充させることで、交通事故の防止に効果を発揮

具体的な事業(講習)例

- 地域の自動車教習所等が運転免許既得者向けに行う先駆的な講習
- 企業全体又は自社内のドライバーの安全意識向上のために組織的に講習 等

(運転技能自動評価システム)



(物忘れ相談プログラム)



(スリップ走行訓練)

